

河西便り



第3号
「学ぶ」ことについて
2021年5月21日
和歌山市立河西中学校

【学校教育目標】

「自主的でたくましく、心豊かな生徒の育成」

「学びの進化」 ～どのように学ぶか～

5月18日（火）1学期中間テスト発表（テスト1週間前）しました。1年生にとっては、初めての定期テスト。2、3年生は、それぞれ新学年での定期テストになります。先日配布した、新学習指導要領実施に伴う新たな学習評価となつてのテストとなります。日ごろの成果を十分発揮してほしいものです。

さて、新しい学習指導要領の下で、「どのように学ぶか」が重視されており、キーワードは「主体的・対話的で深い学び」の視点となっています。資質・能力を育むために、新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善を重要視しています。

それでは、主体的・対話的で深い学びの視点とは、どのような視点なのかですが、大きくは次の3つ視点になります。

(1) 「主体的な学び」の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自分の進路や職業などの方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるような学びになっているかという視点。

(2) 「対話的な学び」の視点

子供同士が目標を共有し力を合わせて活動をしたり、先生や地域の人との対話や先人の優れた考え方を手掛かりに考え、自分の考えを広げ深めるような学びになっているかという視点。

(3) 「深い学び」の視点

各教科等で、その教科等なりの「見方・考え方」を学ぶだけでなく、様々な教科等で学んだ見方・考え方を相互に関連付け、自分なりに問題を見いだし解答を導きだせるような学びになっているかという視点。

このように、能動的（アクティブ）に学び続ける「アクティブ・ラーニング」の視点から、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視して、学校の授業を改善していきます。学んだ一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」と思える授業、周りの人たちと共に考え、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業などを工夫して、みなさんの資質・能力を育んでいきたいと考えています。

保護者の皆さまへ

子供たちに必要な資質・能力を育むためには、学校の授業だけではなく、家庭や地域の皆様の理解と協力が欠かせません。学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることがとても大切です。

ご家庭の皆様は、新しい学習指導要領の考え方や、子供たちが学校で学んでいることに関して、是非、子供たちと話したり、一緒に考えたりしてみてください。保護者の働きかけがある子供は学力が高いという傾向があります。皆様の働きかけが、子供たちの「生きる力」を育む力になります。

（政府広報）

前述しましたが、5月25日（火）26日（水）は、1学期中間テストとなりますので、よろしく願います。



<部活動、授業風景>

